

東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理汚染水海洋放出の中止を求める

2024年8月24日でALPS処理汚染水の海洋放出開始から1年を迎えました。

現在でも、福島県漁連は海洋放出反対の立場は変えていません。

東京電力は、これまで通算7回、合計5万4700トンの海洋放出を行い、現在8回目の放出を行っています。

タンクに保管している汚染水総量は約134万5千トンであり、放出量は約4%に過ぎません。東京電力は、当初タンクを解体し、空いた敷地に核燃料デブリを取り出す関連施設を建設する予定でしたが、現時点では約千基あるタンクは1基も解体されていないのです。

更に、現在でも汚染水が1日約80トン増え続けています。汚染水は廃炉完了目標の2051年まで続くと言われます。

東京電力福島第一原発の廃炉作業は昨年からは、事故が相次いでおり、海洋放出直前に、西村康稔経済産業相は「最後の一滴まで国が全責任をもってやる」と見解を示しましたが、その責任は果たしていないのが現状となっています。

汚染水発生を根本的に止めるために、専門家が指摘している広域遮水壁と集水井を設置すべきです。

ALPS処理汚染水の海洋放出から1年が経過するなか、政府及び東京電力は海洋放出の撤回とともに即時中止することが漁連と交わした約束を守ることであり、生業としての漁業を守ることになります。

以上

2024年8月24日
社会民主党福島県連合
代表 狩野光 昭